

豊田市公設地方卸売市場経営展望

－ 豊田市民に安全な食を提供し、元気を生み出す地域拠点市場 －

1. 豊田市公設地方卸売市場経営展望とは

豊田市公設地方卸売市場は、昭和 57 年の開場後およそ 36 年が経過しており、施設の老朽化と、社会状況やライフスタイル、生産・流通構造の変化への対応が求められています。

そこで、食品流通を取り巻く情勢の変化に対応し、川上と川下をつなぐ架け橋として求められる卸売市場の機能、役割の強化・高度化に向けた整備及び運営を行うため、本市場の今後の進むべき方向を示す「豊田市公設地方卸売市場経営展望」を策定します。計画期間は、平成 30 年度から平成 37 年度までの間とします。

2. 将来ビジョン

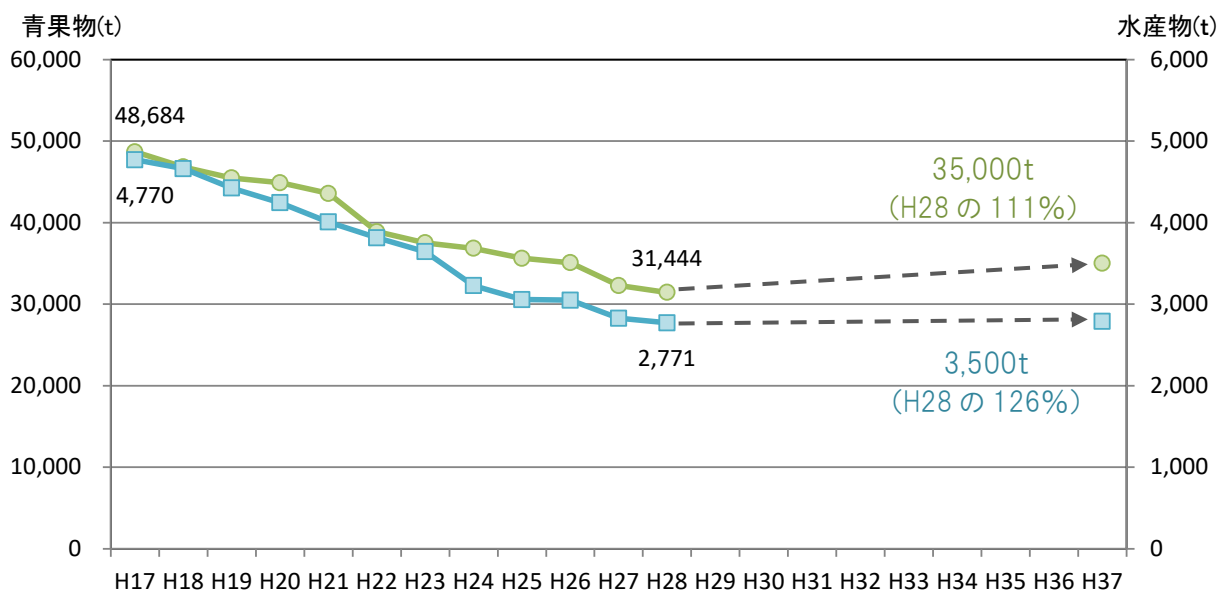
豊田市民に安全な食を提供し、元気を生み出す地域拠点市場

- 豊田市等の実需者や市民に確実に、安心安全な食が供給されている
- 名古屋市場との強力な連携により食材が確実に調達されている
- 県内及び全国産地との結びつきが強化されている
- 供給・販売先が、加工や給食需要などに対応し供給圏内外で充実・拡大している
- 余剰地を活用して、市場機能と連携した食の産業立地が進み、産業振興に寄与している

3. 年間取扱量の目標

市場内事業者及び開設者として、年間取扱目標量を下記のとおり設定します。青果物、水産物ともに、開設区域にとどまらず区域外にも販売展開を広げていくことにより、青果物は現状（平成 28 年）の 111%（35,000t）、水産物は 126%（3,500t）をめざします。

項目	実績値			目標値		備考
	平成17年	平成22年	平成28年	平成37年	平成28年比	
青果物取扱量 (t)	48,684	38,883	31,444	35,000	111%	加工物・その他含む
水産物取扱量 (t)	4,770	3,814	2,771	3,500	126%	



4. ビジョン実現に向けた行動計画

(1)市場の基本機能の強化に向けた行動計画

戦略	行動計画	
戦略1：供給圏内外に向けた販売力の強化	(1)量販店等への対応	・地場産青果物を核としたシェア拡大
		・冷蔵庫や水槽等を売りとした水産物のシェア拡大
		・卸と仲卸が連携した販売のための情報交換の強化
	(2)新しい需要等への対応	・地元スーパー向け調理済加工食品の開発
		・外食や中食（弁当・惣菜等）需要への提案型対応
		・施設給食への対応
	(3)供給圏外への販路拡大	・市内の学校給食への食材供給の仕組みの見直し
		・高品質・高価格商品の需要者への提案型対応
		・量販店への対応の発展継続や関係強化による販路拡大
戦略2：県内及び全国からの集荷力の維持・強化	(1)量販店対応を中心とした集荷力の強化と安定化	・集荷力と集荷量の拡充による販路拡大
		・地場産青果物や冷蔵庫・水槽等の設備充実を売りにした販路拡大
		・既存の全国及び県内等地元産地との連携強化
		・名古屋市場との連携強化
	(2)市場主導による地元産地の育成	・大口集荷（集荷量拡充）への挑戦
		・地産地消のためのコンテナシステムの活用推進
		・卸と仲卸が連携した集荷のための情報交換の強化
	(3)全国の新しい産地の発掘型集荷	・近隣市場との共同集荷の強化
		・商品力で差別化を図るために、市内・県内等の産地と連携した商品開発、産地育成支援等を行う。
(4)水産物の集荷力の強化	・高品質・高価格商品の需要者等に対応するため、全国の新しい産地の発掘を行う。	
	・冷蔵庫や水槽等の設備充実を売りにした集荷力の強化	
戦略3：強い市場づくり	(1)場内事業者の経営基盤強化	・経営等に関する研修や学習
		・経営戦略・事業計画の策定
		・強い事業者に向けた連携・合併・統合等
	(2)共同化等による業務の効率化	・近隣市場との共同集荷の強化
		・仲卸業者による加工・配送業務の共同化（ルールづくり、実行組織づくり等）
	(3)未来の市場を担う人材の確保・育成	・市場業務改革のための情報システム化（ICT活用等）
		・市場内事業者の共同による人材確保（リクルート）
	(4)働き方改革及び労働環境の改善	・市場内事業者の共同による人材育成・研修等の実施
		・市場の職務と職場の対外的イメージアップの強化
(5)パッケージセンターの有効活用	・ワークライフバランスの観点からの労働時間管理の徹底	
	・休日日の増加の検討・実施	
戦略4：安全・安心対策の強化	(1)コールドチェーン等の推進	・市場内に加えて市場外からの受注の増加推進
		・パッケージセンターのコールドチェーンへの対応
		・青果棟のコールドチェーンへの対応
	(2)安心・安全の仕組み導入	・水産棟のコールドチェーンへの対応
		・HACCPに準拠した品質管理ガイドラインの策定と運用
		・検査機関による安全検査導入の検討・実施
	(3)老朽化及び効率化のための整備	・青果棟・水産棟の間集荷・配荷・積込所への屋根の整備
		・青果冷蔵庫の荷さばき空間への屋根の整備
		・青果棟及び水産棟の軒空間の照明の強化
・駐車場の照明の強化		
(4)快適かつ清潔な市場づくり	・コンテナ棟への給湯ボイラーの設置	
	・青果棟及び水産棟へのエレベーターの設置（高齢者対策）	
	・ごみ処理等のルール遵守徹底と一斉清掃等の対応	
	・喫煙マナー等の徹底	
戦略5：市場経営の合理化と民間活力の導入	(1)市場経営の合理化	・駐車場の利用ルールの制定と運用の徹底
		・施設稼働率の向上
		・市場運営に係る経費の見直し
	(2)民間活力の導入検討	・駐車場の有料化の検討
		・指定管理者制度導入の検討
		・個別の施設整備・運営の民営化促進

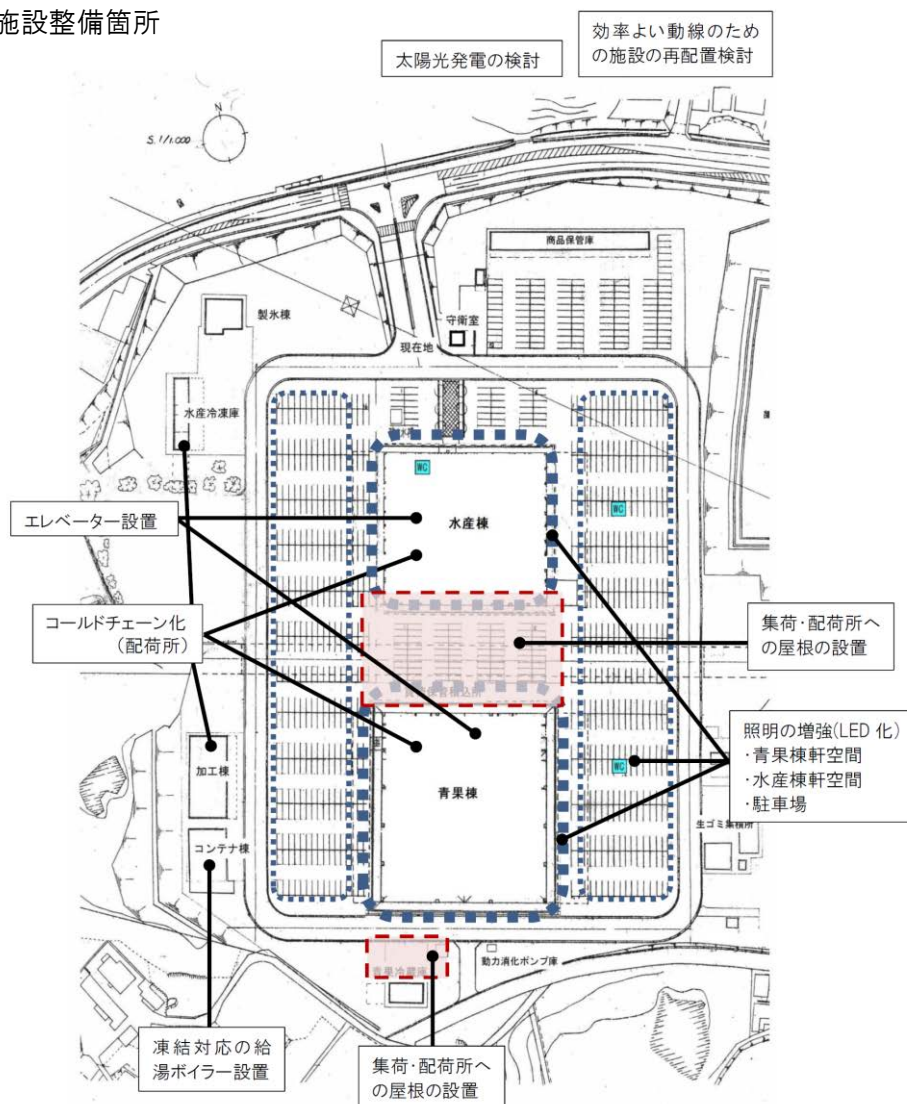
(2)市場の社会的役割の発揮に向けた行動計画

戦略6： 食の情報受 発信機能の 強化	(1)市民への情報発信・ 食育等	<ul style="list-style-type: none"> ・ facebook等での情報発信 ・ 市場見学等の受け入れ充実・強化 ・ 食育活動の推進（魚食普及、料理教室等）
	(2)川上・川下の事業者 との交流推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市場での展示・商談会の開催
	(3)市場開放の検討・推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市場開放の継続、発展の検討 ・ 恒常的なにぎわい施設の整備検討
戦略7： 環境と災害 対策の強化	(1)環境に配慮した市場	<ul style="list-style-type: none"> ・ L E Dの導入検討 ・ 太陽光発電の導入検討 ・ 電動フォークリフト等の導入拡大の検討
	(2)災害に強い市場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ B C P（事業継続計画）の推進・確認

(3)市場施設の新たな活用の検討に向けた行動計画

戦略8： 余剰地を活用した食の 産業振興	(1)余剰地を活用した企業 立地の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 余剰地の活用可能性の検討調査（市場機能と連携した企業等の立地） ・ 企業立地に向けた条件等の整備（ハード、ソフト）
	(2)市場施設の再配置の 検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設間の動線の効率化と民間需要施設の民間による整備の観点から、市場施設の再整備及び再配置の検討

■おもな施設整備箇所



5. 重点プロジェクト

将来ビジョンの実現に向けて、先導的に行う取組を重点プロジェクトとし、進めます。

趣旨	取組	主体・体制
(1) 使いやすい市場に改造プロジェクト 【使いやすさアップ】		
<ul style="list-style-type: none"> 取扱量をアップするため、また快適な労働環境にするためには、市場を使いやすいする必要があります。 そのため、特に優先度が高いと想定される施設整備について、先行的に取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> 青果棟・水産棟の間集荷・配荷・積込所への屋根の整備 青果冷蔵庫の荷さばき空間への屋根の整備 青果棟及び水産棟の軒空間の照明を強化 パッケージセンター、配荷所等のコールドチェーンへの対応 	卸会社と仲卸会社と連携し開設者に対応
(2) 大ロット集荷・販売プロジェクト 【取扱量アップ】		
<ul style="list-style-type: none"> 今後、当市場が名古屋大都市圏の中で生き残り、存在感を出し続けるためには、取扱量を一段階上げる取組が必要です。 そのため、豊田市場の交通アクセス等の強みを活かして、大ロットの集荷と、圏域外への販売展開も含めた取組にチャレンジします。 	<ul style="list-style-type: none"> 10 tトラック2台分の集荷とその販売への挑戦 近隣市場との共同集荷 量販店等と連携した販路開拓、仲卸どうしの共同配送 冷蔵庫や水槽等を強みにした集荷と販売 	卸会社と仲卸会社が連携（青果、水産それぞれでチームを設置）
(3) 豊田市場が独自に育て、目利きする、産地・商品育成プロジェクト 【質と注目度アップ】		
<ul style="list-style-type: none"> 中間流通である卸売市場は単にモノを流すだけではなく、川上である産地と、川下である実需者の両方のニーズを知っていることが強みです。 幸い、当市場は市内や県内あるいは全国に優秀な産地とつながりがあるとともに、トヨタ自動車関連をはじめとする高品質・高価格商品を求める良質な実需者とつながっています。 それらを活かして、豊田市場が独自に産地を育て、商品化し、販売する一気通貫の取組を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元及び全国等の連携できる産地の発掘・特定 産地及び商品の育成支援、ブランド化（話題性のあるギフト商品等を想定） 商品の独自販売（特定の販路でプレミアムな方法で販売） 	卸会社と仲卸会社が連携（青果、水産それぞれでチームを設置）
(4) 豊田市の食産業を活性化する余剰地活用プロジェクト 【地域経済アップ】		
<ul style="list-style-type: none"> 比較的広く余裕のある当市場の敷地を活用し、市場機能と連携した産業機能を配置することにより市場の活性化や豊田市全体の食産業の活性化を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎調査の実施（立地条件や空間面、インフラ面、都市計画等の基礎的な条件） 可能性調査の実施（市場側からのニーズ、立地ニーズの両方からの可能性についての調査） 実現に向けた条件整備（上記調査を受けたハード及びソフトの条件の整備） 	開設者が中心となり、場内事業者と連携しつつ推進します。

6. ビジョンの推進

- ビジョンを実現するための行動計画を着実に実施し、その成果を評価し、次なる行動に活かしていくために、PDCAの考え方で推進するものとします。
- ビジョンの推進体制として、市場内事業者等からなる豊田市公設地方卸売市場経営展望推進会議を設置します（事務局を開設者）。